

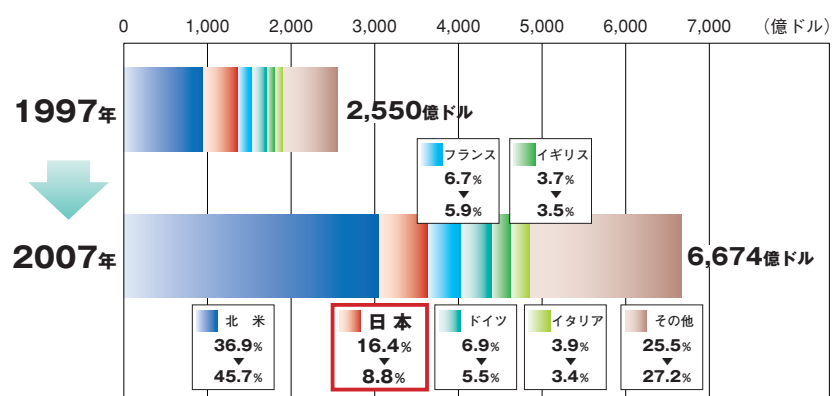
# 日本の製薬産業

## — その規模と研究開発力

### 世界から見た日本の製薬産業

#### 世界第2位を維持するもシェア半減の日本の医薬品市場

1997年から2007年までの10年間で世界の医薬品市場はおよそ2.6倍もの規模に成長しました。日本市場は北米市場に次ぐ第2位の地位を維持していますが、2007年のシェアは1997年の約2分の1。たび重なる薬価引き下げなどで、グローバル市場から見ても日本の医薬品市場の成長は抑制されてきていることがわかります。

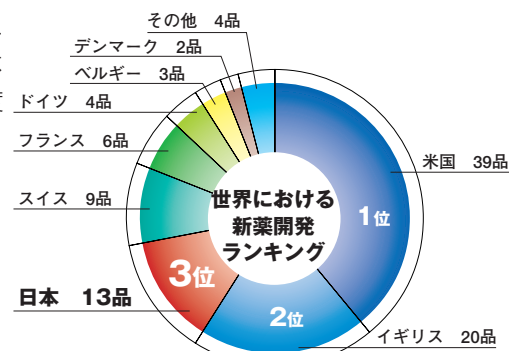


(2000年より調査方法の変更があり一部改竄)  
出典：IMS MIDAS 2008

#### 日本の新薬開発力は米・英に次ぐ世界第3位

世界の売上上位100位までの製品を、開発した起原国籍別に見ると、日本で生まれた医薬品は13品目で、米国の39品目、イギリスの20品目に続く世界第3位。この優れた新薬開発力により、世界への高い貢献度を誇っています。

※同一成分の重複および検査薬を除いた100製品の集計

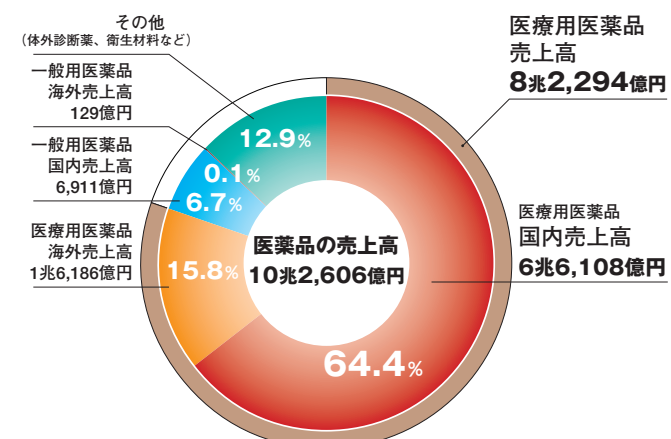


出典：医薬産業政策研究所「製薬産業の将来像」2007

### 日本の製薬産業

#### 医療用医薬品の国内売上高は6兆6,108億円

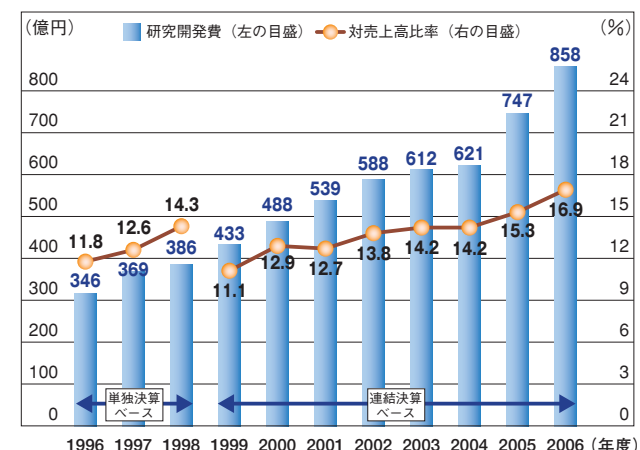
医療用医薬品の売上高は2005年度において8兆2,294億円。うち6兆6,108億円が国内における売上高、1兆6,186億円が海外への売上高となっています。国内における一般用医薬品の売上高は6,911億円となっており、医療用と一般用の売上額の比率はおよそ10：1です。



出典：厚生労働省「医薬品産業実態調査報告書」平成17年度

#### より高度な技術と革新性を求めて増大する研究開発費

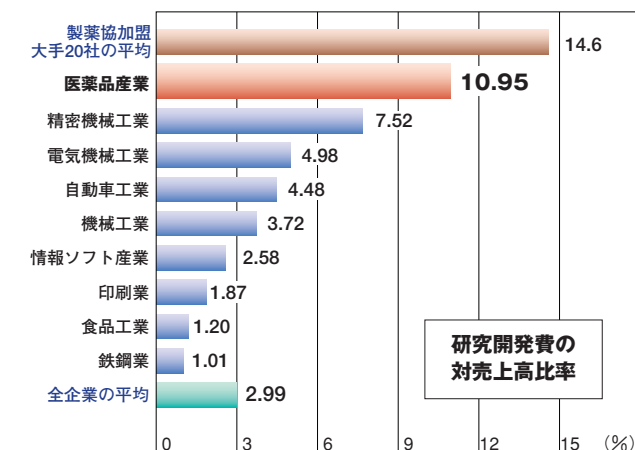
日本でひとつの新薬を開発するための費用は約500億円ともいわれています。日本の製薬企業のうち大手10社の平均開発費用は、1999年では1社あたり433億円でしたが、2006年では2倍の858億円に増大。こうした背景から、新薬開発の競争力を高めるために、近年では製薬企業の合併も進んでいます。



出典：製薬協 DATA BOOK 2008

#### あらゆる産業のなかでもトップクラスの研究開発費比率

新薬開発の特徴は、それに費やされる長い年月と低い成功確率です。さらに、安全性と効果を追求するため多額の研究開発費が必要となります。製薬協に加盟している大手20社の研究開発費比率は平均で14.6%となっており、医薬品産業としての開発費比率でも10.95%と他の産業に比べ、際立って高くなっています。



出典：総務省「科学技術研究調査報告(2007年12月11日付け)」製薬協 DATA BOOK 2008